

定住自立圏における地域医療の取組

自治医科大学 地域医療学センター

梶井 英治

医師不足

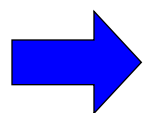
- 養成数の不足
- 医師の偏在
- 医療需要と医師数との不均衡

世界標準に比し数倍の病床数と受診患者数

→ 質の確保が困難

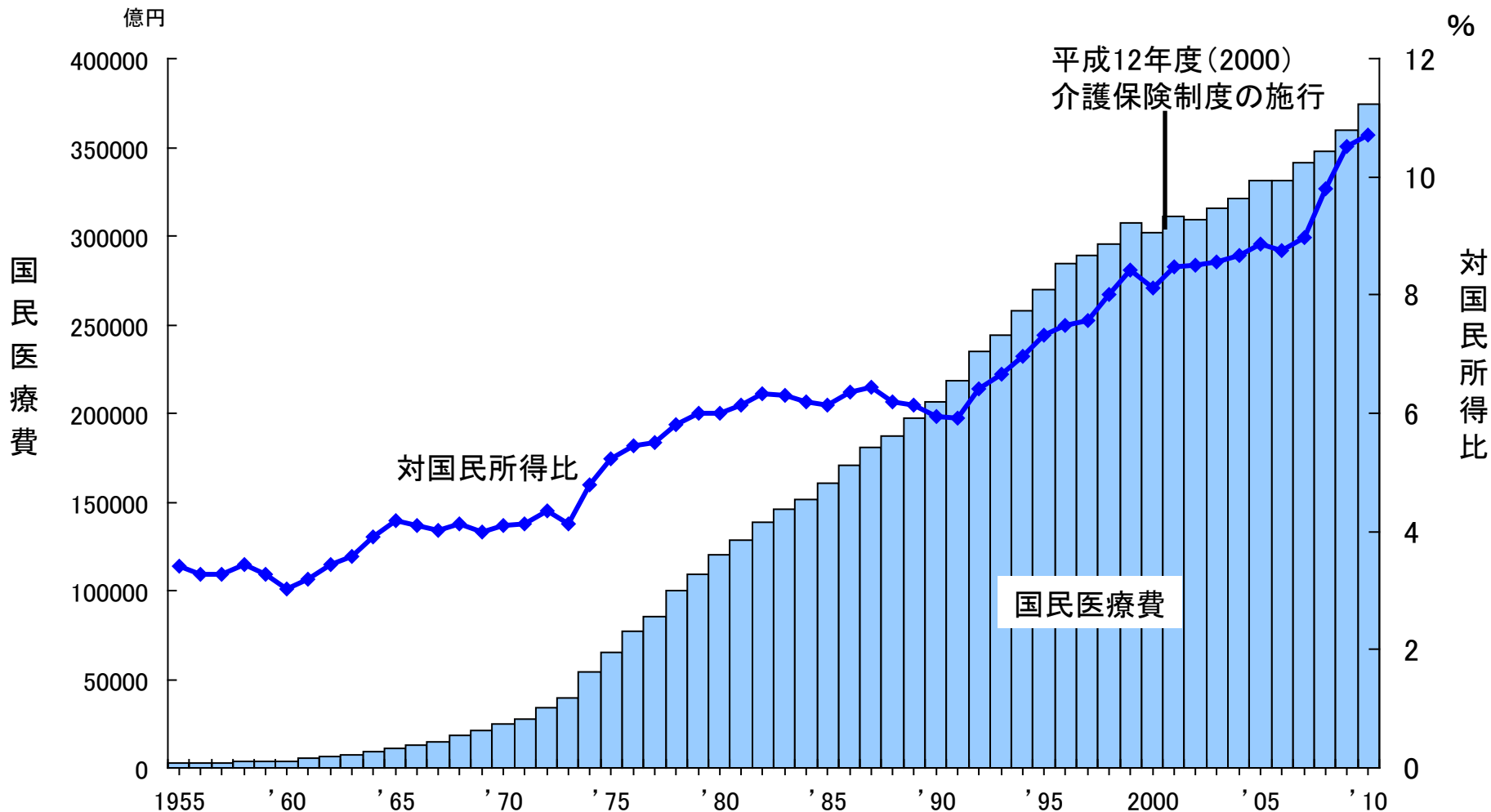
→ サービスの低下、医療事故・ミスが増大

→ 患者の不安・不満が増大



医療者の献身的努力に限界

国民医療費と対国民所得比の年次推移



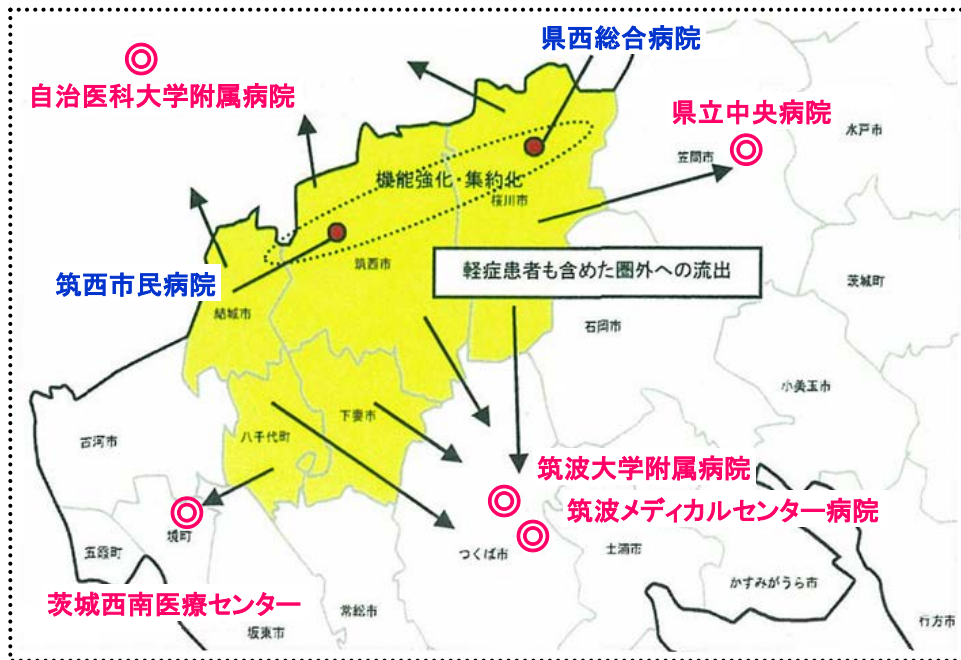
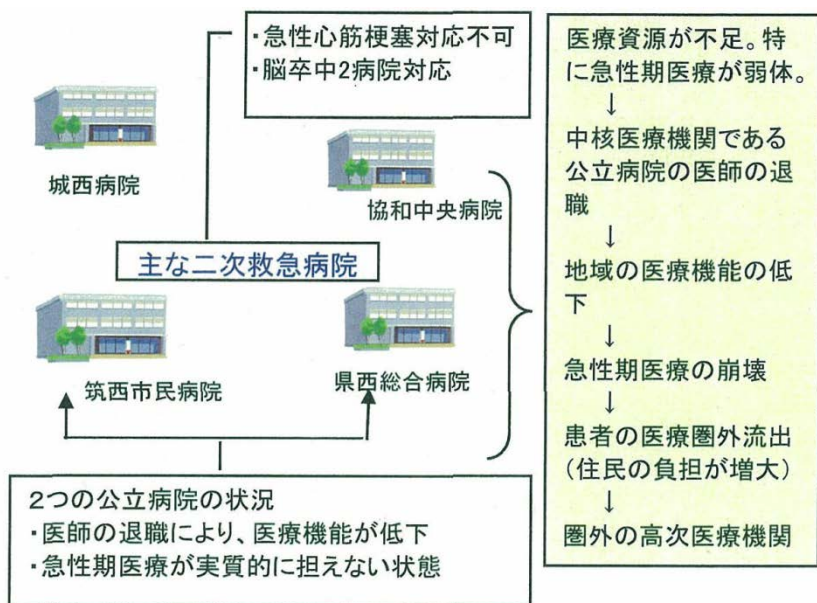
国民医療費 (平成22年度)

地域医療の確保・充実策の方向性

- 1 かかりつけ医の定着（総合医の育成）
- 2 住民への啓発・普及
（住民が参加する地域医療づくり）
- 3 医療機関の機能分担・連携
- 4 保健・医療・福祉の連携
- 5 地域という枠組みの再構築
- 6 地域医療を支援する体制の充実
- 7 各都道府県あげての地域医療体制の構築

茨城県西部地域における医療課題

- 1 少ない医師数(人口10万人対95.8人:全国平均の半分以下)
- 2 急性期医療機能の不足(特に心筋梗塞、脳卒中)
- 3 医療連携体制の不備、軽症患者までも他医療圏へ流出
- 4 回復期リハビリテーション機能、在宅医療機能の不足





新しい医療提供体制の創出へ向けて

— 自治医科大学地域医療学センター地域医療再生プロジェクト部門

- 総合診療を中心とした医療提供体制
- 新しい医療圏域の構築
- 医療機関の役割分担・連携
- 地域包括ケアの推進
- 住民の参加する地域医療づくり



医療圏域

- 行政圏域
 - 都道府県
 - 市町村
 - 1次、2次、3次医療圏
- 地域コミュニティ
 - 生活圏域

目標： 安心して暮らせるための地域医療の構築

地域医療再生計画への参加協力(医療体制整備)

地域医療システムの構築 ～二次医療圏～

スタッフのリクルート

方法・手段:

発信

～住民とともに再生する地域医療～

- ・住民の目線～住民を巻き込む～
- ・行政の目線
- ・医療者の目線

TV会議
シンポジウム
フォーラム

診療

～診療支援～

継続性

救急
病棟

総合診療科
の開設

他病院・医師会との連携

ヘルス・プロモーション

研究

～調査・研究～

総合医モデルの構築
専門医との連携

診断の質の改善
疫学調査:ICPC coding
診断サポートツール作成
Prediction rule作成
主訴ごとの問診票

患者意識、受療行動
変化を分析

中規模病院の機能

臨床研究システムの構築
臨床データの標準化・収集
臨床の疑問→研究→結果の還元

教育

地域研修医療機関

現状把握:

地域医療に対する関心(行動変容)

外来・入院・救急・ドック・在宅
健康教室?

健康プロブレムと受療行動の把握

住民の求める医療

意識・受療行動に関する調査

■ 課題名:

筑西市民の受療行動および地域医療に関する意識についての調査

■ 目的:

- ・筑西市民の健康問題、受療行動、QOL、医療に対する意識の現状把握
- ・地域医療再生プロジェクト部門の活動によるそれらの変化(活動の効果評価)

■ 方法:前向きコホート研究

■ 対象者:筑西市民、16歳以上(約94,000人)

■ 選定方針:住民基本台帳より層化無作為抽出(地区別、年齢階層別、性別)にて約10,000人を選出。

■ 調査方法:対象者に郵送にて自己記入式質問票(別紙1参照)を配布し、返信用封筒を同封し回収する。初回回答者に対し、毎年1回ずつ計4回の追跡調査を行う。

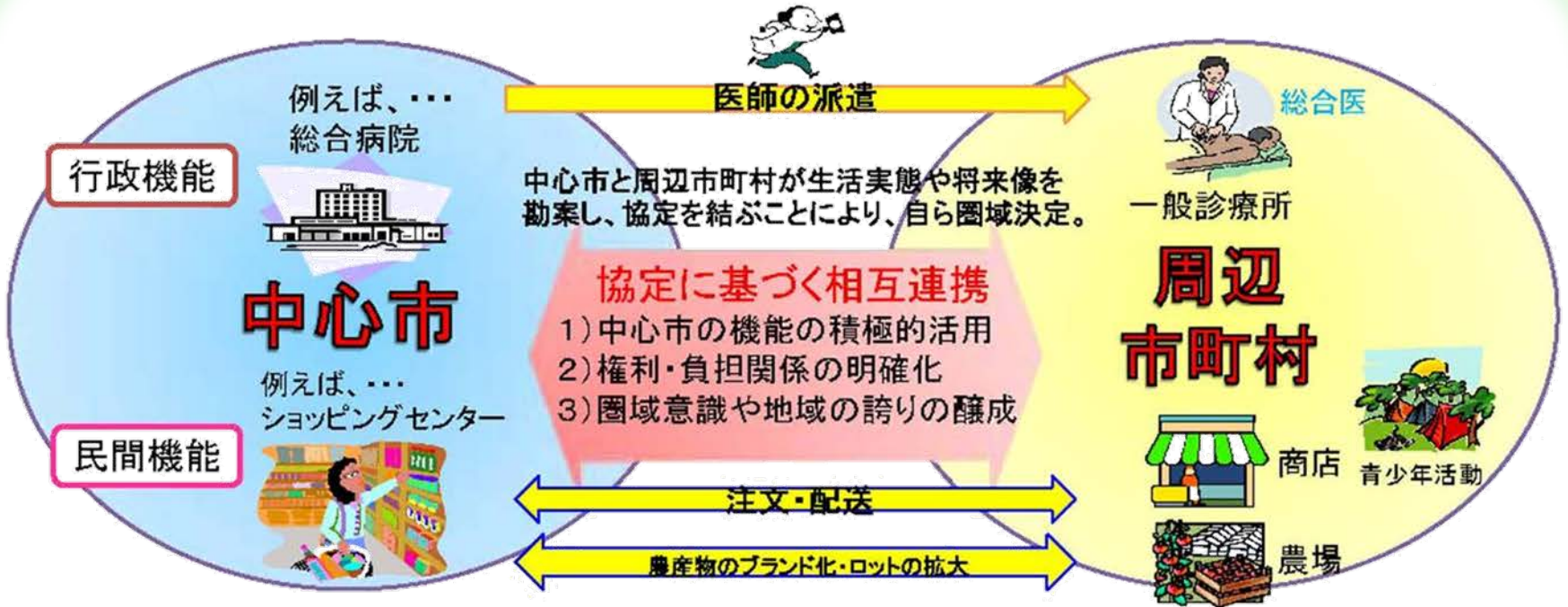
- 地域医療データバンクの構築
- データ分析に基づいた政策立案ができる人材の育成
- データに基づいた医療圏域・提供体制の再構築(含 医師配置計画)

定住自立圏構想

- ◆ “行政機能の確保から生活機能の確保へ”
- ◆ “住みたいまちで暮らせる日本を”
- ◆ “すべての市町村にフルセットの生活機能を整備することは困難”
- ◆ “自治体自己完結主義から圏域の形成へ”
- ◆ “集約とネットワーク”

定住自立圏のイメージ

定住自立圏



- ・人口5万人程度以上（少なくとも4万人超）
 - ・昼夜間人口比率1以上
- ⇒生活に必要な都市機能について、一定の集積があり、周辺地域にスピルオーバーしている都市

- ・中心市と近接し、経済、社会、文化又は住民生活等において密接な関係を有する市町村
- ・環境、地域コミュニティ、食料生産、歴史・文化等の観点からの重要な役割を期待

中津市 定住自立圏形成協定の概要

県境型



福岡県・大分県



中心市名	人口(人)		昼夜間人口比率	
中津市	84,312		1.024	
周辺市町村名	人口(人)	周辺市町村名	人口(人)	
宇佐市	59,008	築上町	19,544	
豊後高田市	23,906	上毛町	7,852	
豊前市	27,031	圏域合計	221,653	

※平成22年国勢調査

○中津市と周辺町村との間の定住自立圏形成協定の概要

(1) 生活機能の強化に係る政策分野

- ア 小児救急医療体制の確保
小児科の休日夜間における救急医療体制を確保するため、小児救急に係る医師人件費等を圏域自治体で負担する
- イ 勤労者福祉サービスセンターの運営
圏域の中小企業の従事者に対する共済金の給付や余暇活動に対する助成を行うサービスセンターの運営を圏域で支援する。また、各自治体は、サービスセンターへの加入促進活動を協力して行う
- ウ 企業誘致等
企業誘致のための工業用地整備や、誘致活動の推進、従業員のためのインフラ整備等を行う

(2) 結びつきやネットワークの強化に係る政策分野

- ア 公共交通
病院等圏域の生活機能を確保するための施設に対するアクセス向上のため、コミュニティバスの路線新設や既存路線との連携を検討
- イ 定住・移住促進
定住・移住促進のための空家等の情報を圏域内で集約し、共同で情報発信
- ウ 圏域内外の住民との交流
圏域の交通ネットワークを活用した広域観光ネットワークを形成し、観光振興及び圏域内外の住民との交流を推進
- エ 広域道路網整備
病院等圏域の生活機能を確保するための施設に対するアクセス向上のための道路整備や、広域的な交通ネットワークの整備促進

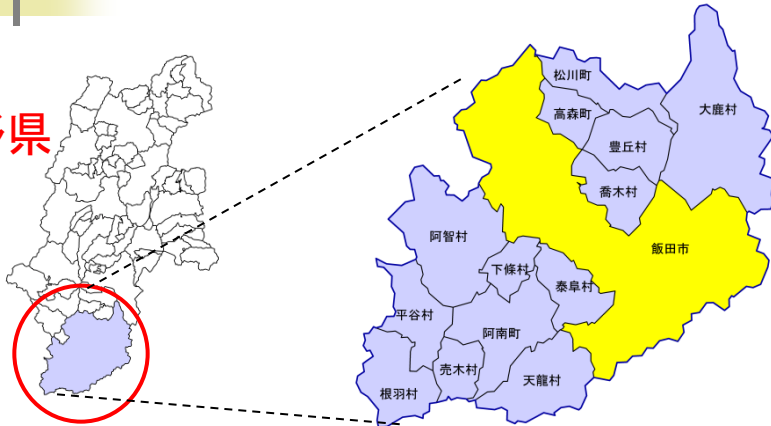
(3) 圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野

圏域自治体職員の資質向上のための合同研修の開催や、人材交流の推進、圏域外からの専門家の招聘等をおこなう

※周辺市町により、協定内容は異なることに留意。

飯田市 定住自立圏形成協定の概要

長野県



中心市名	人口(人)	昼夜間人口比率	
飯田市	105,335	1.047	
周辺市町村名	人口(人)	周辺市町村名	人口(人)
松川町	13,677	売木村	656
高森町	13,216	天龍村	1,657
阿南町	5,455	泰阜村	1,910
阿智村	7,036	喬木村	6,692
平谷村	563	豊丘村	6,819
根羽村	1,129	大鹿村	1,160
下條村	4,200	圏域合計	169,504

※平成22年国勢調査

○飯田市と周辺町村との間の定住自立圏形成協定の概要

(1) 生活機能の強化に係る政策分野

- ア 医療
 - ・救急医療体制の確保
(救命救急センター、休日夜間当番制)
 - ・産科医療体制の確保
(セミオープンシステム、共通カルテ)
 - ・大規模災害医療救護体制の整備
- イ 福祉
 - ・圏域健康計画の策定
- ウ 産業振興
 - ・地場産業センターの運営等
(人材育成、新事業展開、新規創業等の支援)
 - ・鳥獣害防止総合対策
- エ 環境
 - ・地域ぐるみによる環境関連活動
(環境モデル都市の取組の普及拡大)

(2) 結びつきやネットワークの強化に係る政策分野

- ア 地域公共交通及びICTインフラの整備
 - ・公共交通ネットワークの構築
(周辺町村とを結ぶバス路線の確保等)
 - ・地域情報共有システムの構築
(メール配信システム、地域コミュニティサイト、データ放送システムの構築及び運営)
- イ 圏域内外の住民との交流及び移住の促進
 - ・にぎわい拠点の整備
(飯田市中心市街地、名勝天竜峡等のにぎわい創出等、町村に存する多様な観光資源の魅力の向上等)

(3) 圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野

- ア 人材育成等
 - ・環境、法務、財務会計、税務等の専門研修
 - ・生活機能の強化、結びつきやネットワークの強化の取組を推進するための研修
 - ・圏域外の専門家の招へい等

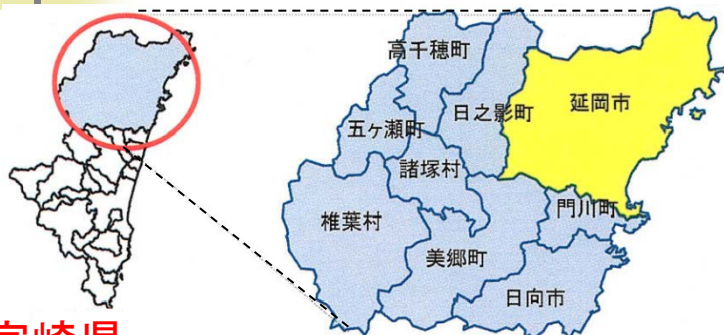
※周辺市町により、協定内容は異なることに留意。

南信州定住自立圏の取り組み

＜地域医療について＞

- 中核的な病院としての飯田市立病院の拡充
 - ◆ 飯田市の努力と圏域の協力
 - 医師数H16 68名 → H22 98名
- 飯伊地区包括医療協議会の運営
 - ◆ 休日夜間急患診療所の運営
 - ◆ 医療ガイド、小児医療マニュアルの作成・配布
 - ◆ 新型インフルエンザ対策
- 産科医療の病診連携体制
 - ◆ 産科セミオープンシステム
(妊娠36週までは診療所、以降は病院)
 - ◆ 産科共通カルテ

延岡市 定住自立圏形成協定の概要



宮崎県

圏域重複型 (日向市圏域)

中心市名	人口(人)	昼夜間人口比率	
延岡市	131,182	1.013	
周辺市町村名	人口(人)	周辺市町村名	人口(人)
日向市	63,223	美郷町	6,248
門川町	18,854	高千穂町	13,723
諸塚村	1,882	日之影町	4,463
椎葉村	3,092	五ヶ瀬町	4,427
		圏域合計	247,094

○延岡市と周辺町村との間の定住自立圏形成協定の概要

※平成22年国勢調査

(1) 生活機能の強化に係る政策分野

- ① 地域医療
 - ・圏域医療体制の充実
 - ・初期救急医療体制の確立
 - ・検診体制の構築
- ② 産業の振興及び雇用の場の確保
 - ・雇用の場の確保
 - ・木質バイオマス燃料の推進
 - ・鳥獣被害防止対策
 - ・水産物のブランド化及び販売
 - ・圏域観光の推進
- ③ 福祉
 - ・次世代育成支援の構築
- ④ その他
 - ・消防相互応援体制の整備
 - ・廃棄物の適正処理
 - ・大学との連携
 - ・農林水産物の地産地消の推進

(2) 結びつきやネットワークの強化に係る政策分野

- ① 産業振興のための社会資本の連携活用
 - ・物流基盤の連携整備
- ② 地域公共交通ネットワークの構築
 - ・中心市街地の活性化
- ③ ICT基盤の整備活用
 - ・地域情報ネットワークの構築
 - ・ICTによる遠隔医療・遠隔教育等システム構築の研究
- ④ 高速交通網及び幹線・生活道路の整備、活用
- ⑤ 地域の相互理解と交流の推進
 - ・地域の資源を活かした圏域内の交流
 - ・スポーツ合宿の共同誘致
 - ・森林保全

(3) 圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野

- ① 圏域住民の人材育成
 - ・職業系の人材育成
 - ・地域の資源を活かした人材育成
- ② 職員の交流
 - ・行政職員の人材育成
- ③ 外部人材の活用
 - ・ICT基盤を活用した生活機能の強化に係る検討
- ④ その他
 - ・自治体電算システム機能の共同調達

※周辺市町により、協定内容は異なることに留意。

延岡市の地域医療を守る条例

基本理念

地域医療を守る

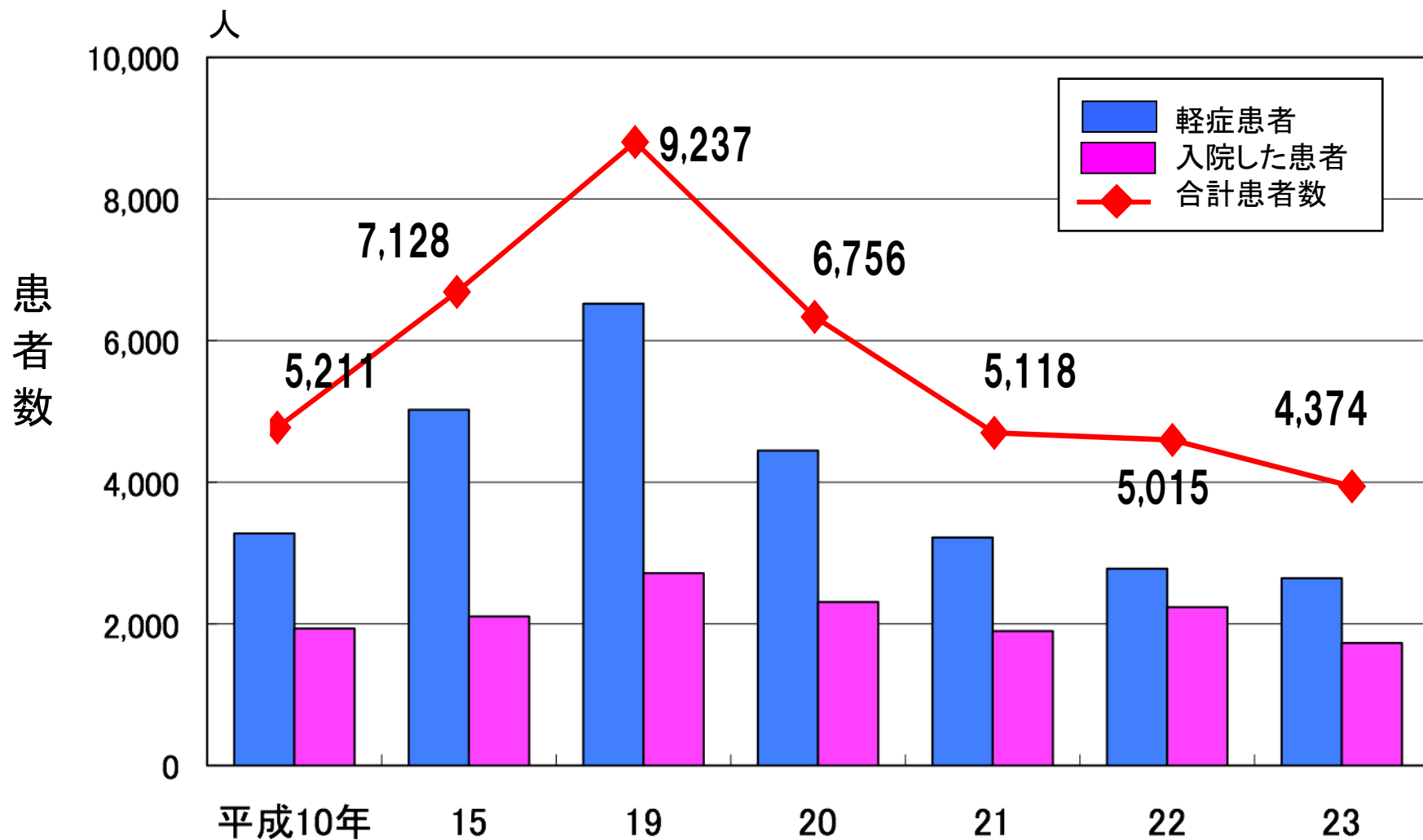
- ◆ 市、市民、医療機関が一体となり地域全体で守る

健康長寿を目指す

- ◆ 医療、保健、福祉の連携
- ◆ 市民自らの健康増進の努力

市民意識の変化による救急患者の減少

県立延岡病院 夜間・休日 救急患者数の推移





地域医療を守り・育てる住民活動

地方シンポジウム in のべおか

平成23年 **11月12日** 土 12:00受付
12:30開始

カルチャープラザのべおか 多目的ホール

宮崎県延岡市本小路 (JR延岡駅からタクシー7分)



【対象者】

地域医療に興味のある方ならどなたでもOK

【お申込方法】

お申込みフォームにご記入の上、web、E-mail、FAX、電話等のいずれかの方法でお申込みください。

【お申込み・お問い合わせ】

宮崎県内のかた

地方シンポジウム事務局 (宮崎)
〒882-8686 宮崎県延岡市東本小路2-1
延岡市地域医療対策室内
TEL 0982-22-7066 FAX 0982-22-1347
E-mail: si-iryuu@city.nobeoka.miyazaki.jp

宮崎県外のかた

地方シンポジウム事務局
〒329-0498 栃木県下野市薬師寺3311-160
(財) 地域社会振興財団内
TEL 0285-44-3840 FAX 0285-44-7839
URL: <http://zcssz.or.jp/>
E-mail: soumu@zcssz.or.jp

【お問い合わせ時間】

月～金 9:00～17:00(土日祝日を除く)

ステップアップ！
明日からの活動を考えよう

■プログラム概要■

- 12:00 受付開始(アイズブレイク)
- 12:30 寸劇「くませんせいのSOS」
- 13:00 開会
- 13:10 みなさんに伝えたいこと
自治医科大学 地域医療学センター長 梶井英治
- 13:30 事例報告・グループワーク・全体会
事例① 小林市地域医療を考える会
事務局長 藤元 隆
事例② 宮崎県北の地域医療を守る会
事務局長 福田政憲
- 18:30 閉会
- 19:00 交流会(ひでじビール「リバーピア」)

宮崎県における小林市や延岡市の取り組みと現状を中心に、地域社会と地域医療の抱える課題や問題を掘り下げ、その中から自分たちの地域でできることを探し出し、持ち帰ることを目的としています。



■ 主催: 宮崎県北の地域医療を守る会・小林市地域医療を考える会・(財)地域社会振興財団

■ 後援: 宮崎県、延岡市、小林市、(社)延岡市医師会、自治医科大学、地域医療を守る県北ネットワークの会、NPO法人地域医療を育てる会、「知ろう!小児医療 守ろう!子ども達」の会、読売新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、西日本新聞社、宮崎毎日新聞社、夕刊アイワ新聞社、NHK宮崎放送局、MRT宮崎放送、UMKテレビ宮崎、ケーブルメディアアライア

地域医療を守り・育てる 県民フォーラム in 小林

平成24年
1月22日(日)
会場：小林市・天守閣
(小林市南西方 1112-36)

プログラム概要

- 12:30 受付
13:00 開会
13:10 基調講演
[地域医療を育てる ひとりの力!みんなの力!]
●自治医科大学 地域医療学センター
センター長 梶井英治氏
- 13:30 パネルディスカッション
●宮崎県福祉保健部医療業務課
課長 緒方 俊氏
●宮崎県国民健康保険診療施設連絡協議会
会長 金丸吉昌氏
●宮崎大学医学部地域医療学講座
教授 長田直人氏
●小林市長 肥後正弘氏
●社団法人西諸医師会
総務理事 内村大介氏
●宮崎県北の地域医療を守る会
事務局長 福田政憲氏
●地域医療を考える会(小林市)
事務局長 藤元 隆氏
(途中休憩あり)
- 15:50 フォーラム宣言
16:00 閉会

育てよう! 地域医療
つなげよう! 県民のわ

申込不要
参加無料
託児あり
(事前に申し込み下さい)

フォーラムの背景と目的

地域医療崩壊の危機を乗り越え、よりよい地域社会を築こうとする住民活動が県内・全国で活発化しています。

また、宮崎県や宮崎県医師会、宮崎大学を始め関係機関の連携・協力による取り組みも進んでいます。

今こそ、それぞれの取り組みを一つにし、地域医療を守り・育てる取り組みを、オール宮崎・県民大応援団で進めましょう。

【お問い合わせ先】

地域医療を考える会
〒886-8601 宮崎県小林市福野300番地
TEL 0984-22-3008
FAX 0984-23-0325

主催 地域医療を考える会・宮崎県北の地域医療を守る会

共催 財地域社会振興財団

後援 宮崎県、宮崎県医師会、宮崎大学、自治医科大学、小林市、西諸医師会、安心できる西諸の医療を考える会、こども・いのち・つなぐ会、宮崎おっばい会、NPO法人あったかほーむ愛あい、朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞社、西日本新聞社、宮崎日日新聞社、夕刊テイレイ新聞社、MRT 宮崎放送ほか

地域医療を考える会 (小林市)



地域医療の現状を伝える座談会(30名増超、1,000人以上参加)を開催。医療者との交流や地域の連携もとりながら、地域一体となった活動に取り組んでいる。

宮崎県内に広がる住民活動のわ

安心できる西諸の医療 を考える会(小林市)

市町の枠を越えて地域医療に関する活動を展開。自主的な学習を重ねながら各地域における講演会を企画・運営し、地域医療について意識の高揚を図っている。

こどもいのちつなぐ会 (日南市)

命いっばい上映会や子育て応援フェスティバル、医学部生との交流会などを開催。小児医療を中心に、適正受診のための知識の普及にも取り組んでいる。

宮崎おっばい会 (宮崎市)

子どもの病気に関する知識の普及を目的に、「宮崎っす玉父ちゃん母ちゃん養成道場」を運営。妊娠・出産・育児をフィールドに様々な情報提供を行っている。

NPO法人あったかほーむ 愛あい(日向市)

救急医療などに関する社会調査を実施。「あなたのために伝えたい事」として地域の医療体制と受診の仕方を案内するリーフレットを作成し、知識の普及を図っている。

宮崎県北の地域医療 を守る会(延岡市)



全国に先駆けて制定された「地域医療を守る条例」を中心に様々な活動を展開。地域総力隊の取り組みを訴え、市民の責務=覚悟として活動を推進している。



地域力

地域が一丸となって、地域の課題を
解決し、暮らしよい地域を創っていく力

※1 地域力の低下

隣人関係の希薄化

地域におけるコミュニティの崩壊

※2 地域力の向上へ向けて

ソーシャルキャピタルをどう高め活用していくか

**地域住民が地域に「誇り」を持ち、
愛する地域を何とかしたいという
強い想いを持たなければ、地域再
生は実現しない。**

（井上健二、「地域の力が日本を変える」 学芸出版社、2011）